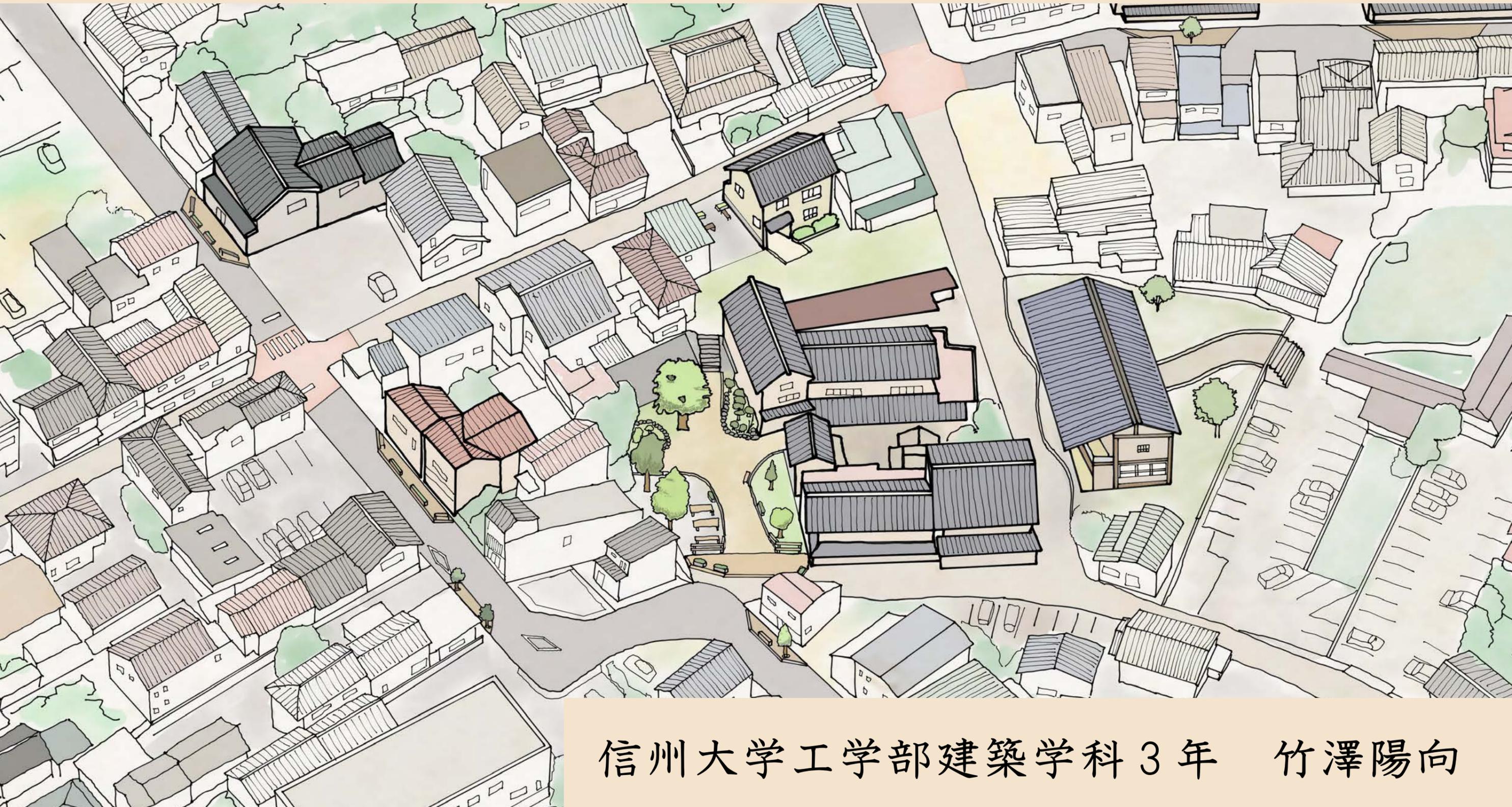


時間と見守る街区

— 暮らしの変化を受け止め、次の世代へ引き継ぐ須坂の街区再生 —



信州大学工学部建築学科3年 竹澤陽向

STEP0 | 須坂を知る・街区を読む

— 須坂の街区に蓄積された記憶の時間の整理 —

大和屋酒店

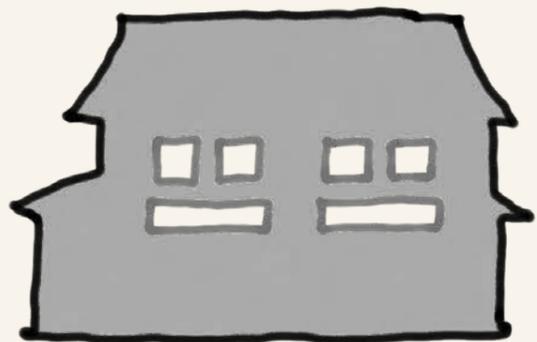
須坂観光タクシー

劇場通り

荒井家

「変化しない時間」 × 「変化し続ける時間」

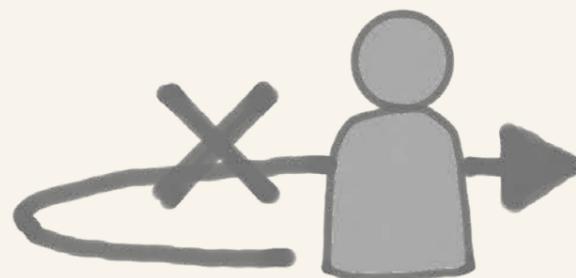
【須坂の街区が抱えていること】



歴史ある建物が
使われなくなっている



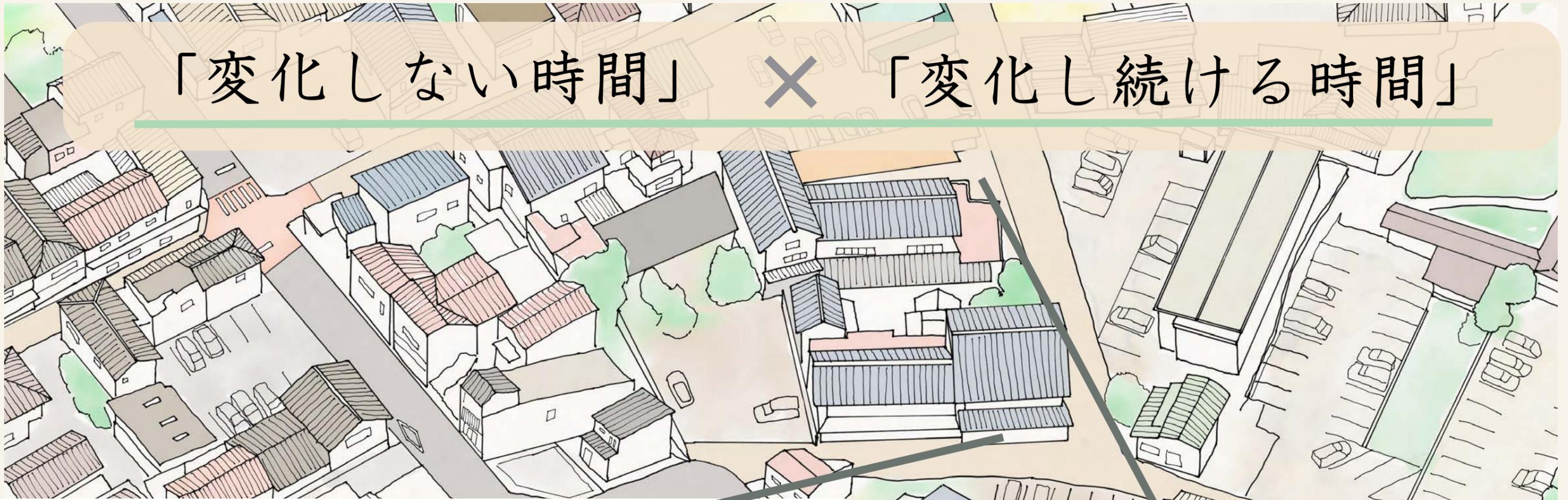
通りに人が
滞在しにくい



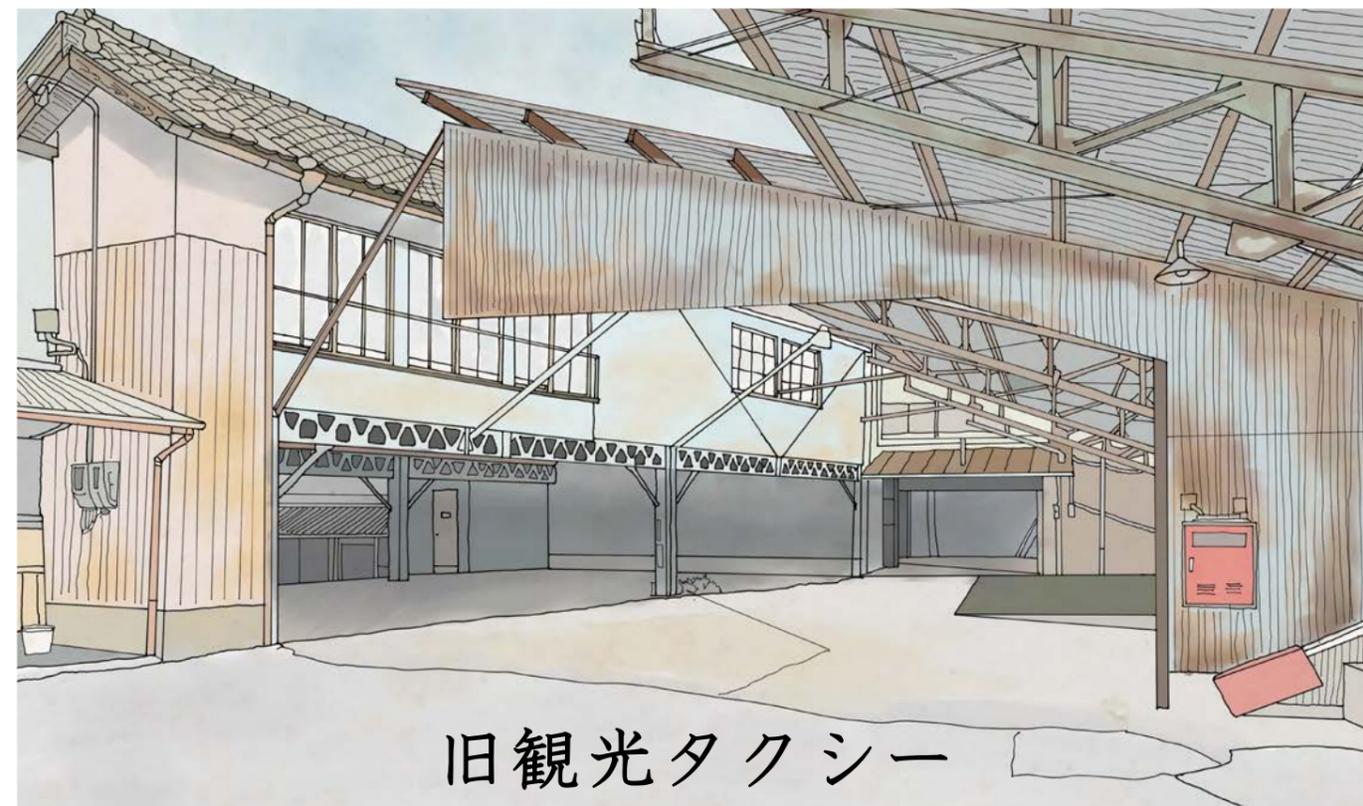
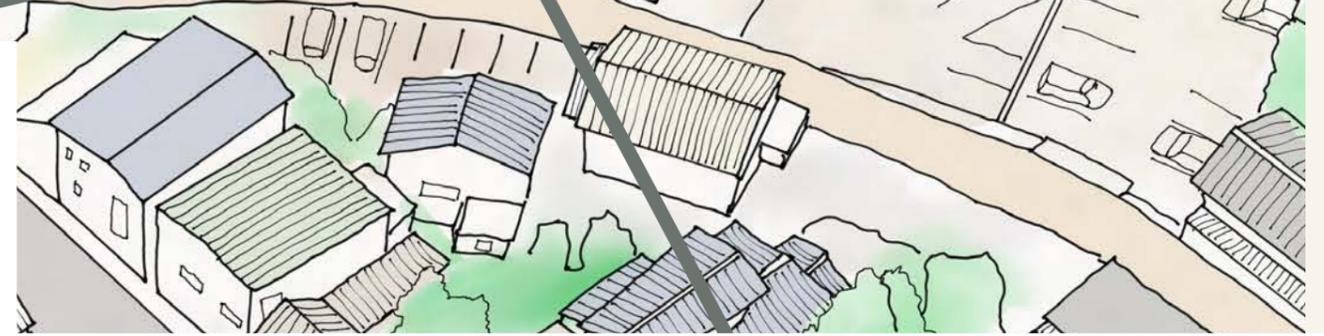
移住の”入り口”が少ない

本計画では、「時間」を軸に、街区をつなぎなおす

「変化しない時間」 × 「変化し続ける時間」



荒井家（旧信用銀行）



旧観光タクシー

【過去（明治～）】

【現在】

【未来（提案）】

不変

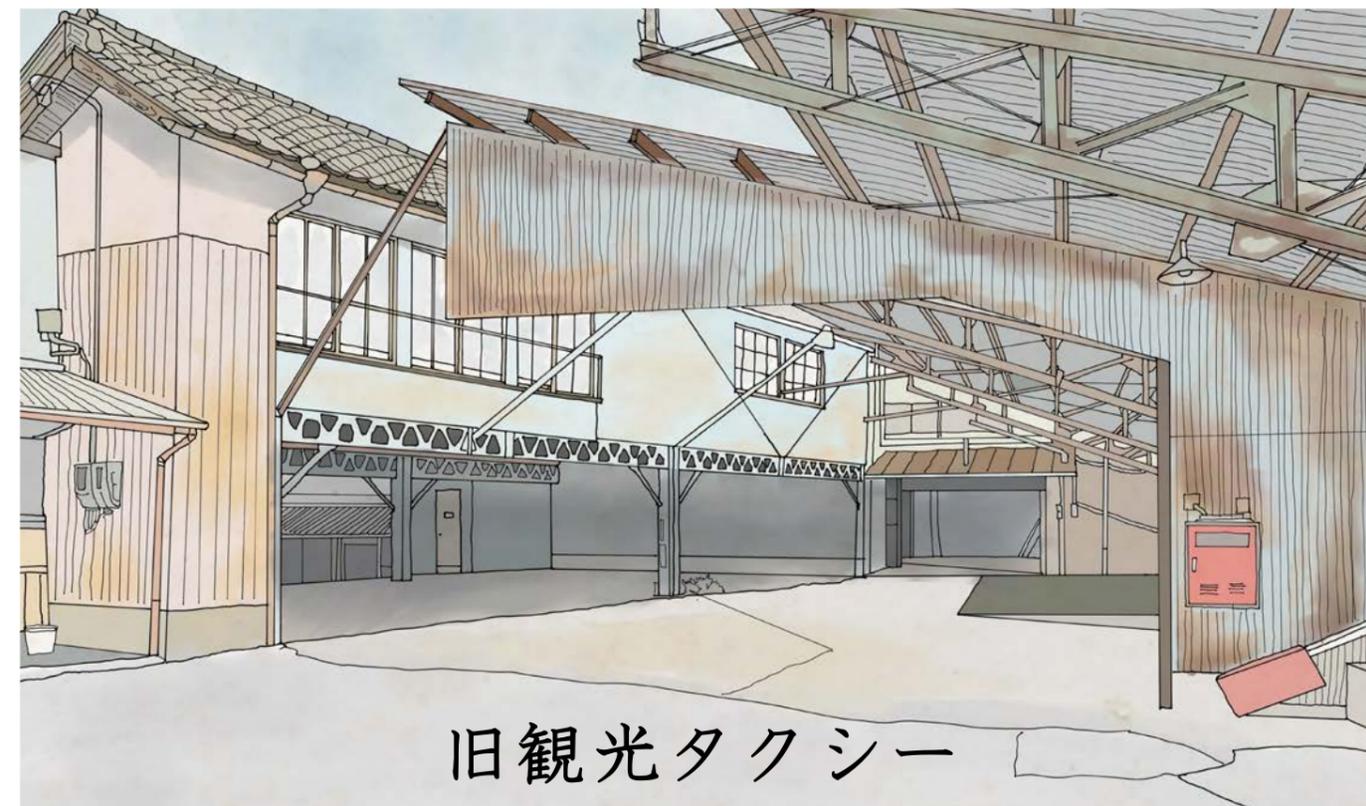
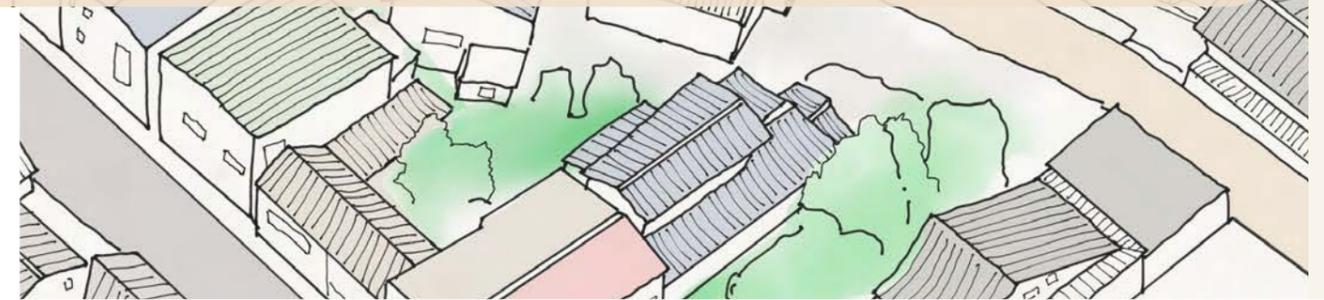
- ・坂と高低差
- ・道の形、街区の骨格
- ・荒井家（明治時代から変わらない姿）
- ・ぼた餅石積み

可変

- ・昔の営み
 - ・観光タクシー
 - ・歩き中心の生活
- 空白
- ・漸進的住宅の成長
 - ・ボンエルフでの生活の滲みだし

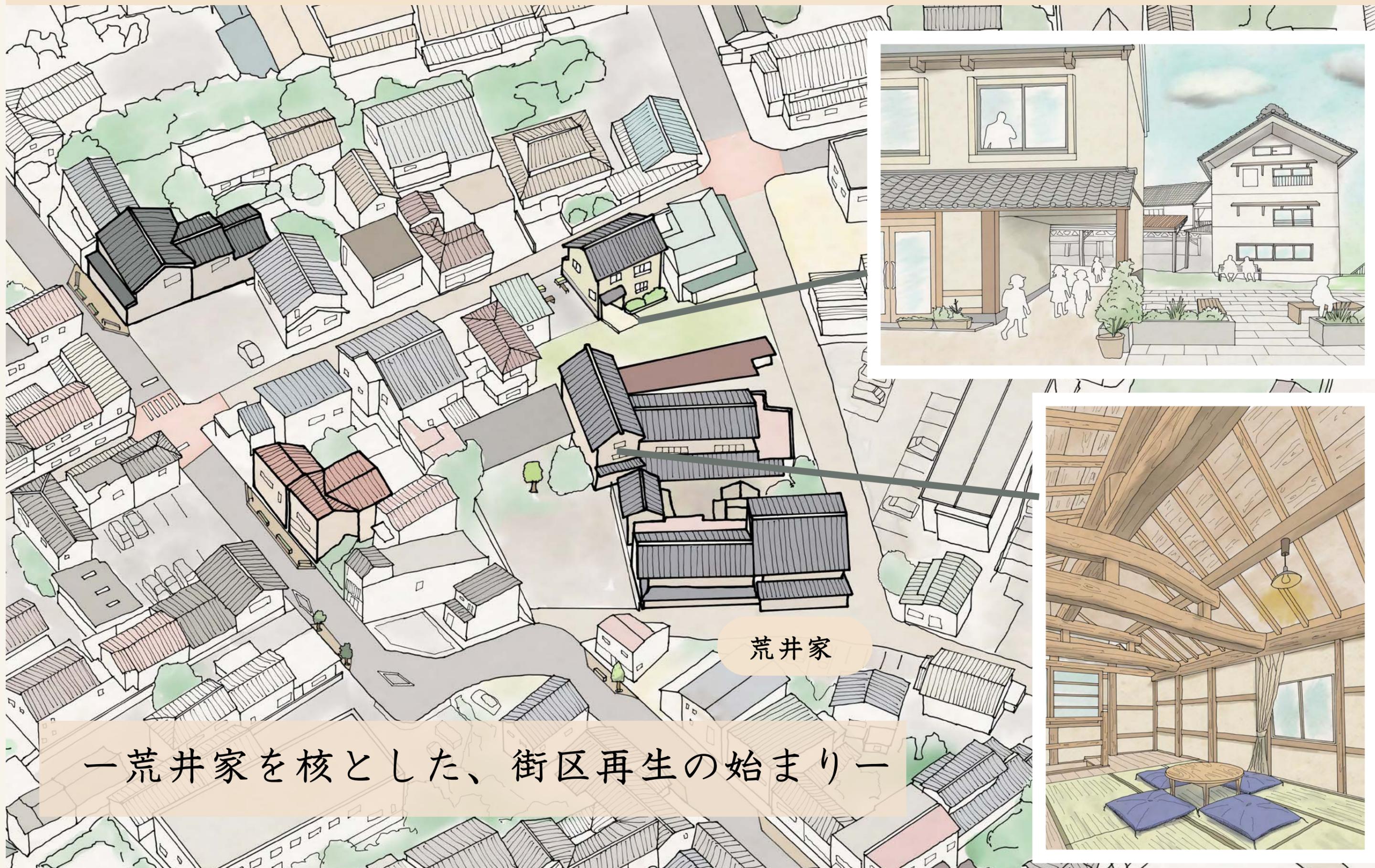


荒井家（旧信用銀行）



旧観光タクシー

STEP1 | 時間を受け止める拠点



— 荒井家を核とした、街区再生の始まり —

【須坂への移住 | 住む前にかかえる時間】



訪れる

観光・行事



滞在する

蔵での生活



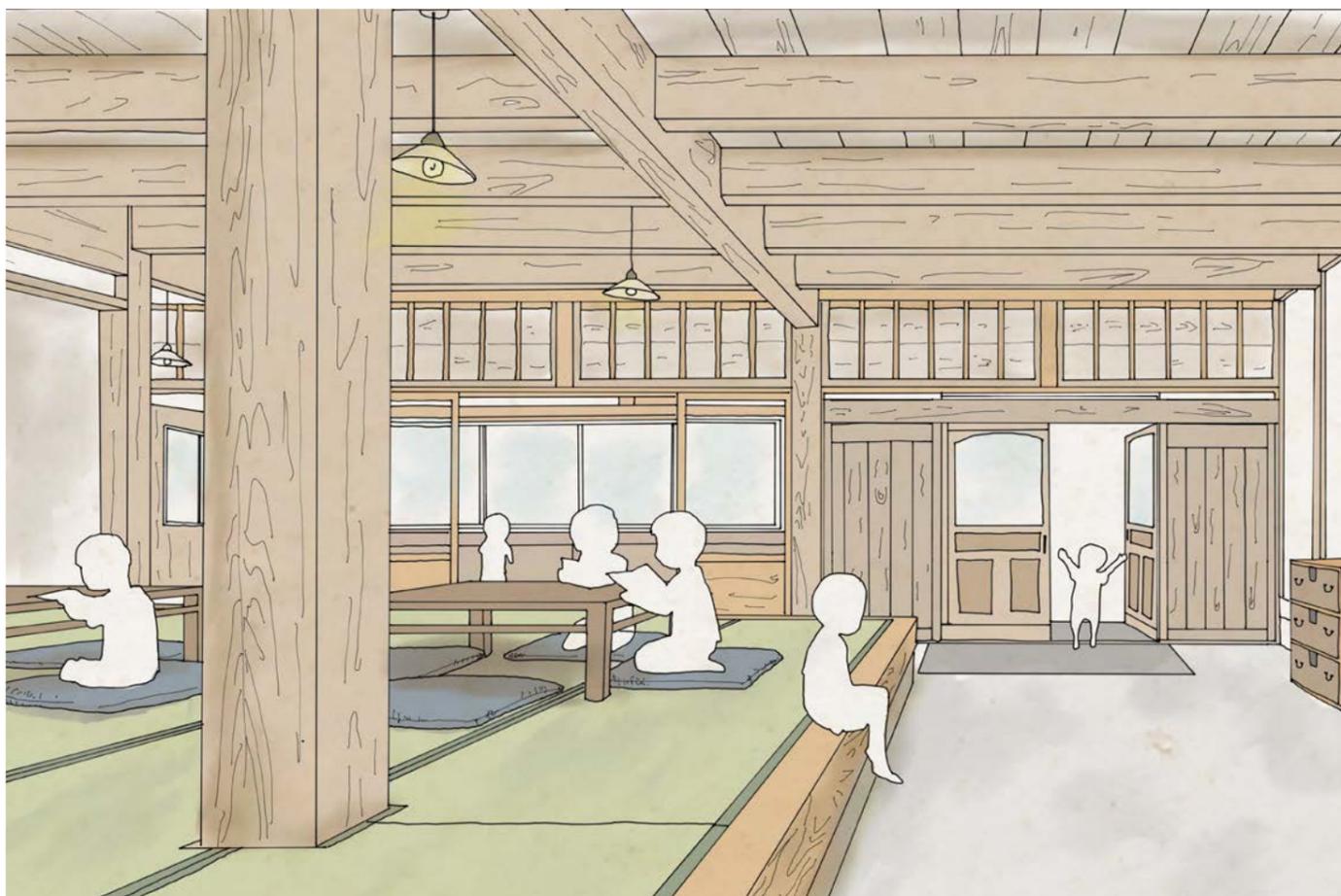
関わる

地域活動・仕事



暮らす

住人になる

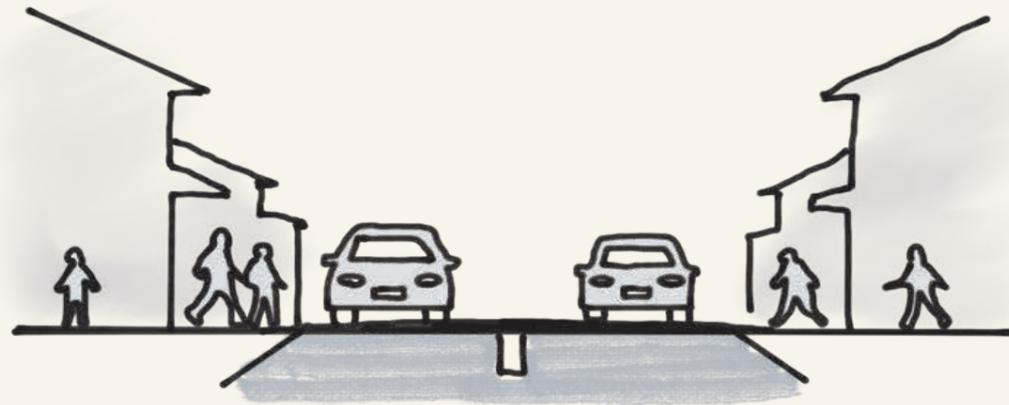


荒井家（地域の居間）



移住体験 蔵の生活

【ボンエルフが与える影響】



【現状】

- ・ 車両優先の道路
- ・ 安全性が低い

- ・ 歩行者優先の空間
- ・ 速度抑制
- ・ 人が滞在、交流



店の前に配置し、滞留できる半公共の道路空間へ

STEP2 | 時間とともに変化する住まい

漸進的住宅 × 移住者

”街に慣れる時間”

を建築として支える



ボンエルフの拡大



【アレハンドロ・アラベナの漸進的住宅】

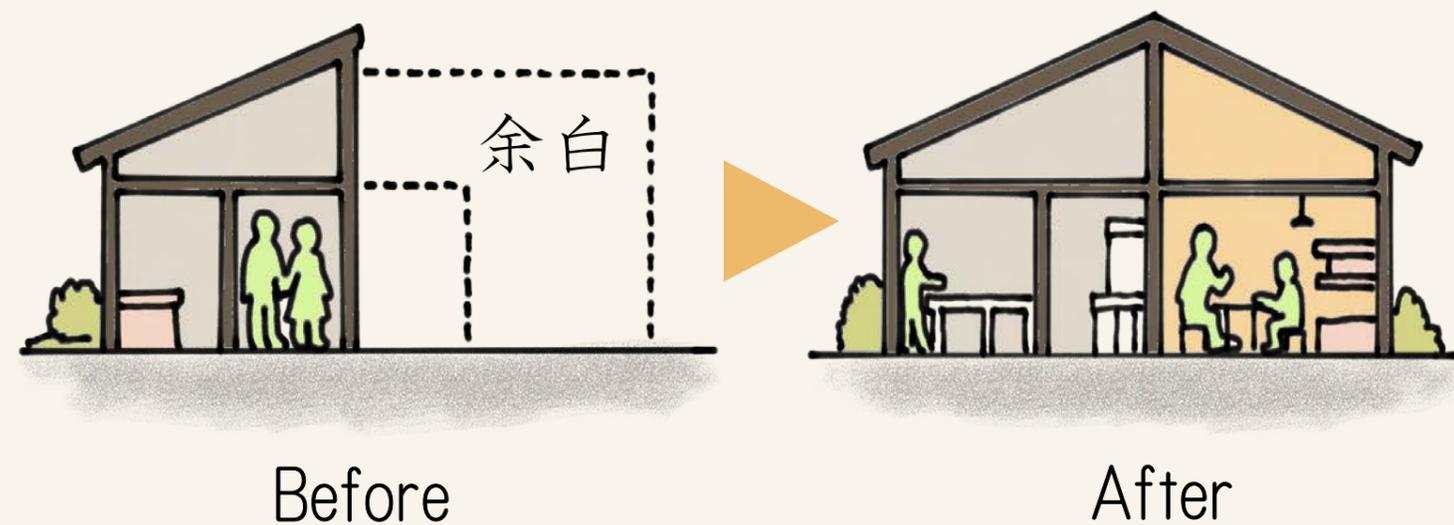


街区の南西の通り

ボンエルフの拡大

主な仕組みと特徴

- 1, 「半分」を建築家を作る
- 2, 残りの半分は住民を作る
- 3, 住み手による価値の蓄積



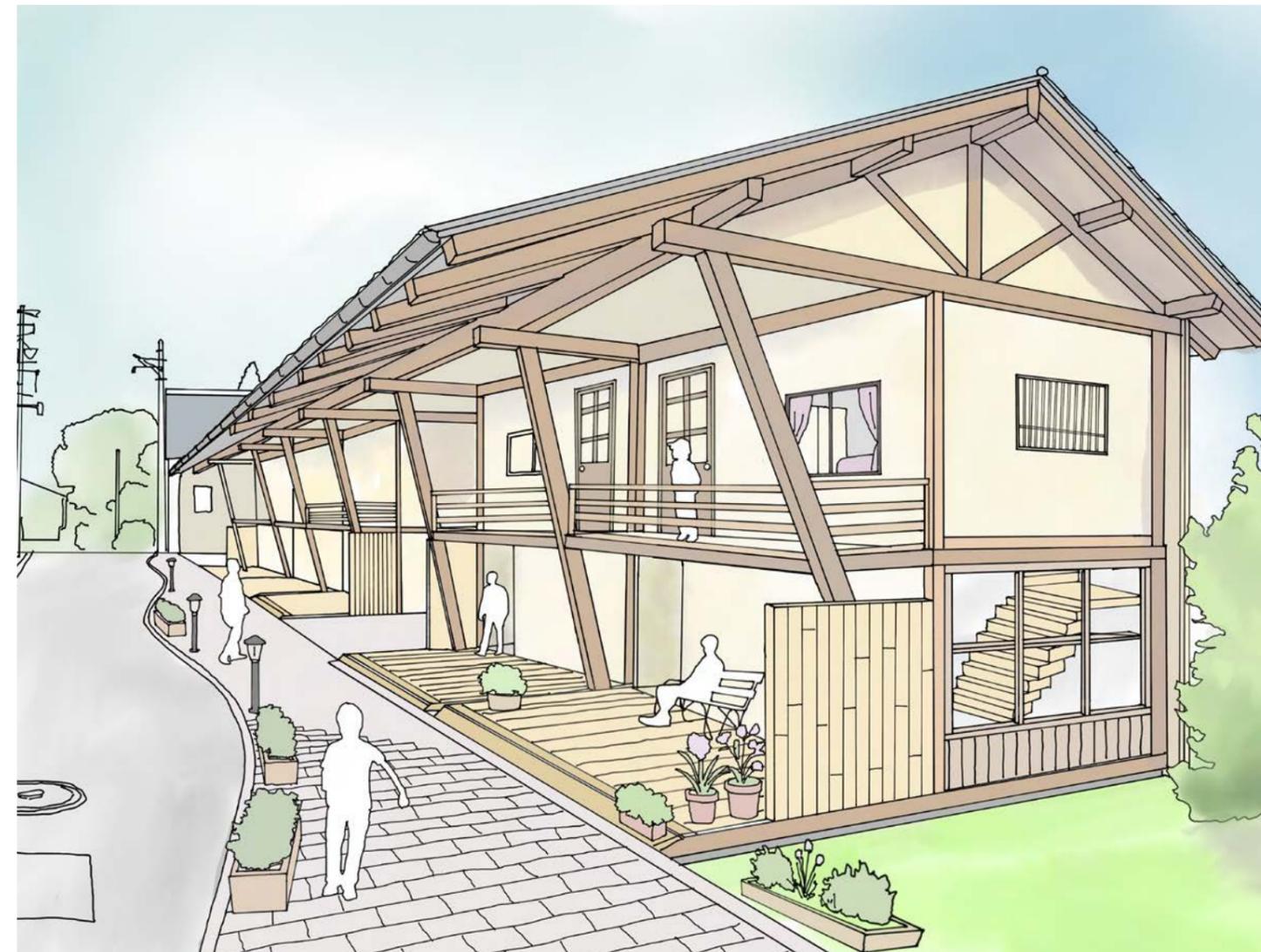
【須坂 × 漸進的住宅】

建築家が用意する

- ・ 雪から守る大屋根
- ・ 命を守るコア（構造・水回り）

住み手に委ねる

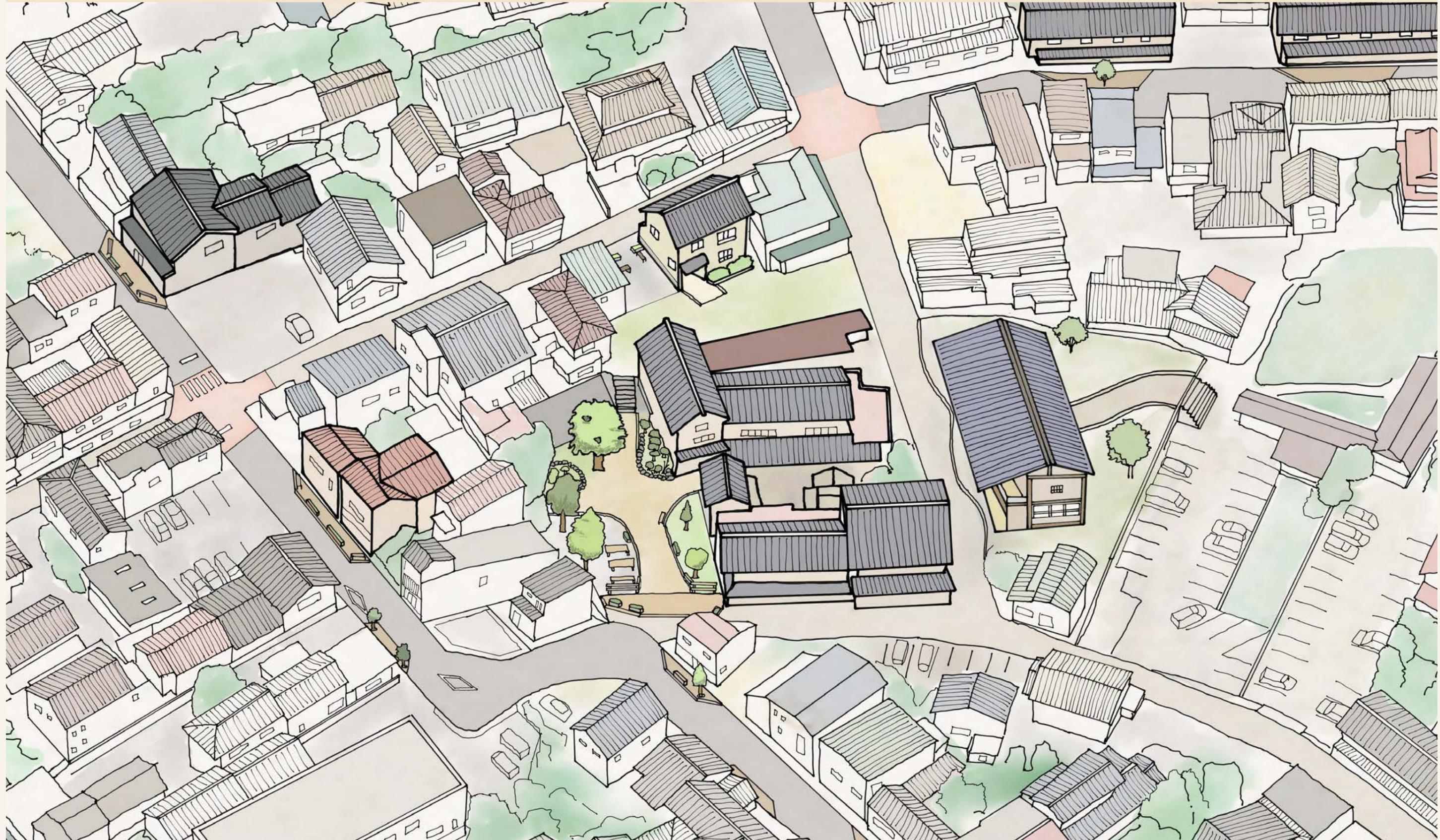
- ・ 増築、DIY可能な余白
- ・ 趣味、仕事、地域活動の場



時間とともに変化し続け、街区を見守る

STEP3 | 時間を受け止める街区

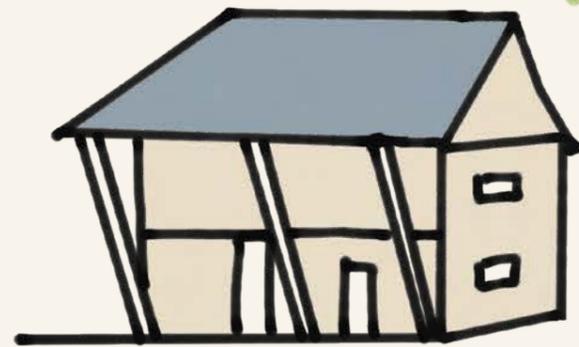
—公園とシンボルツリーが作る街区の中心—



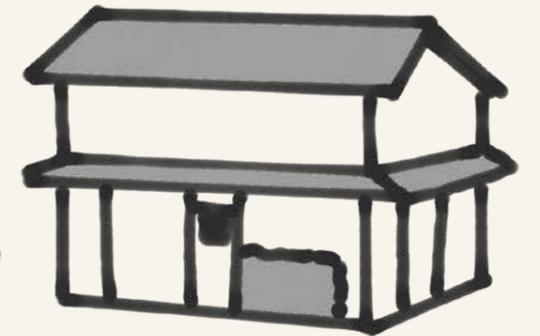
【中央広場】

街区の記憶と活動が集まる広場へ

増築された住まい



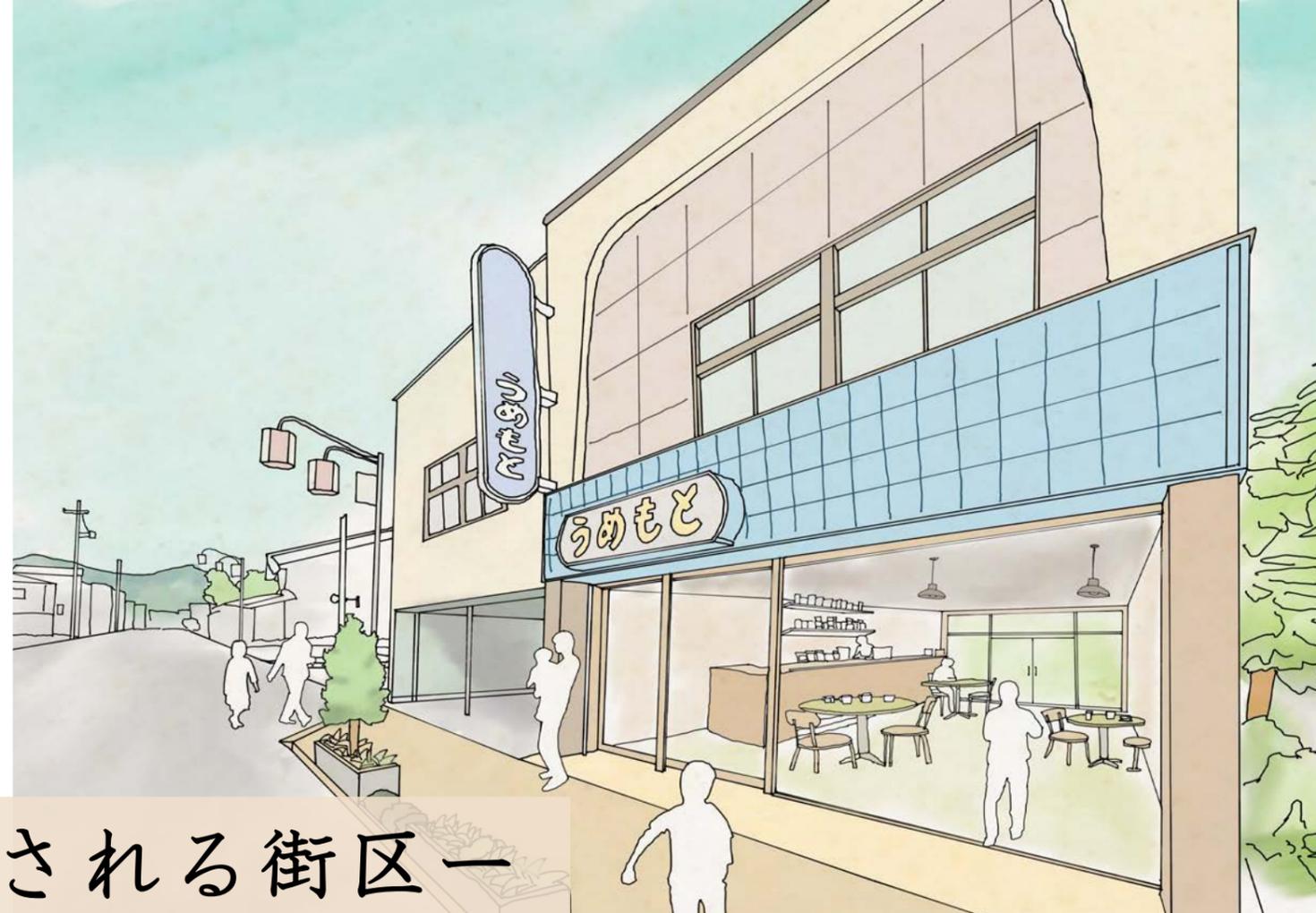
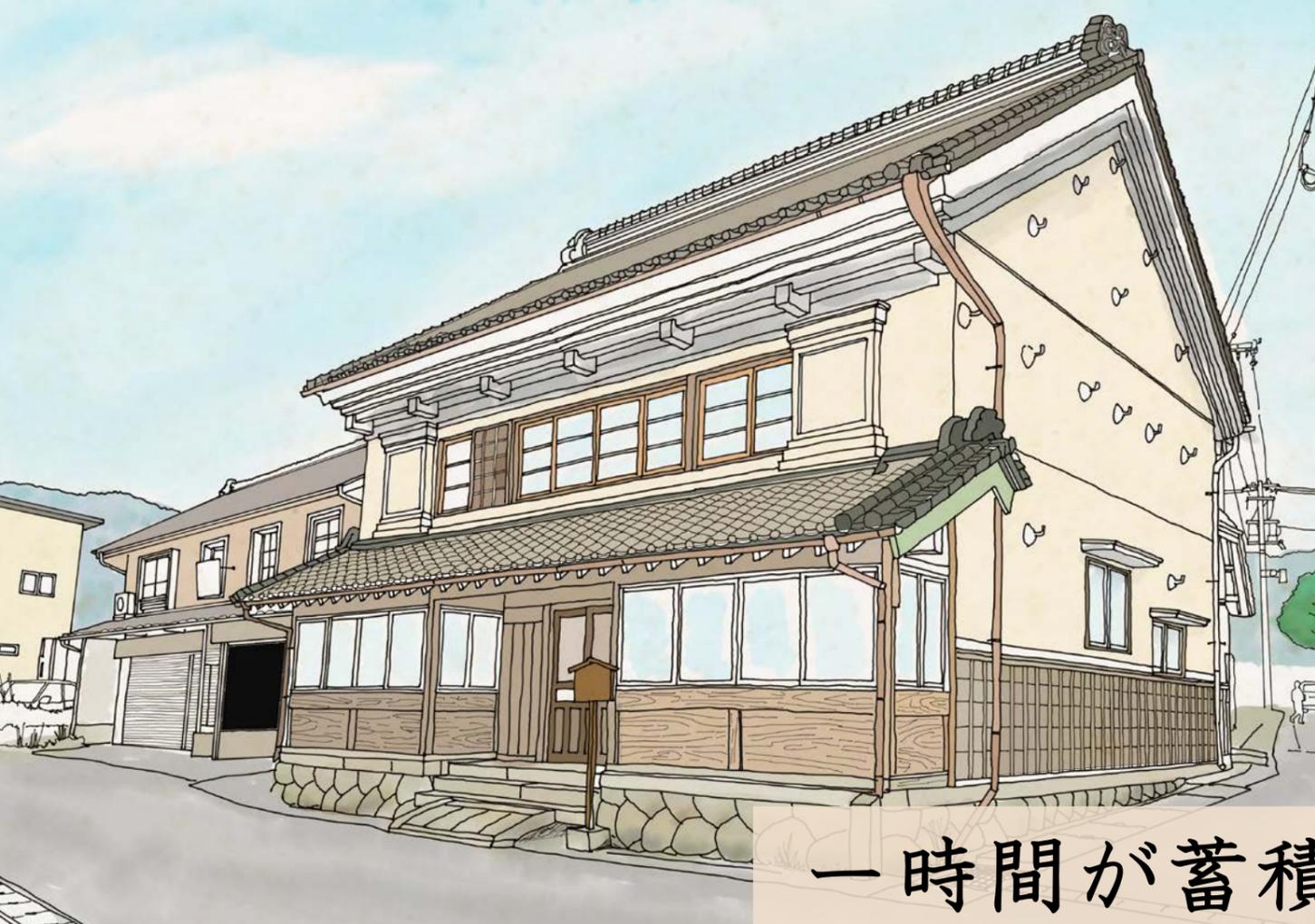
カフェ



暮らしの時間が、
ここに集まる

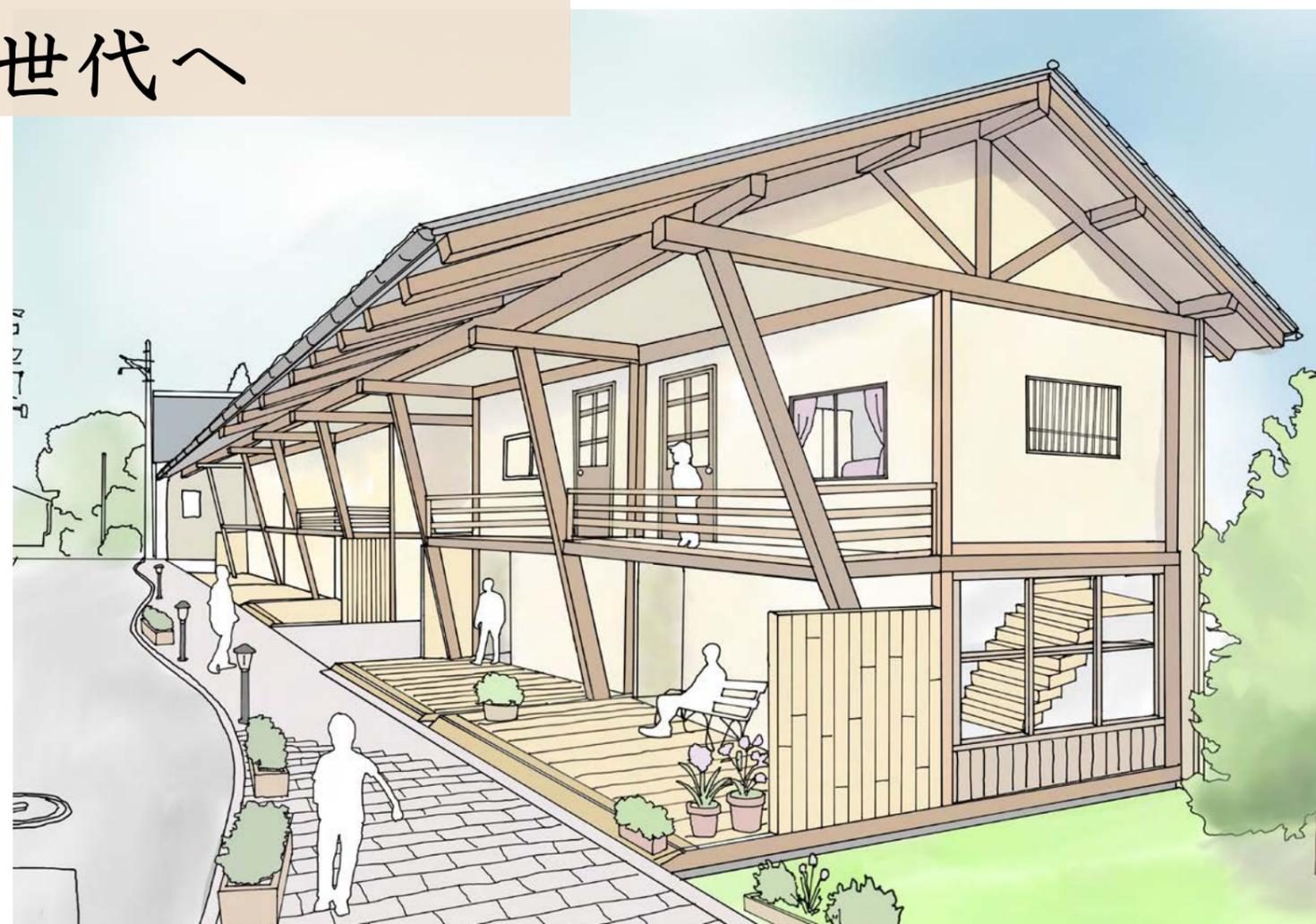
広場と樹木が
街区の時間を見守り続ける





一時間が蓄積される街区一

次の世代へ





ご清聴ありがとうございました